

## 相互参観通信 第1号

令和元年10月8日 保幼小接続推進委員会発行

令和元年9月12日(木)

### 授業参観:境町立猿島小学校 1年1組

10:35~11:05

国語「はなしたいな ききたいな」

指導者 山口 裕美



ねらい:話したいできごとを選び、組立に沿って話す内容を考えることができる。

支援の工夫:音読や話すことを書き出す、2人一組で話す練習をするなど、さまざまな活動を組み合わせることで、興味を持続しながら学習に取り組めるようにする。

授業者より:耳からの情報が苦手な児童に配慮して色分けしたワークシートを準備し、個に応じて助言を行った。適応教室指導員の先生と連携して情報を得て、授業を構成することができた。

参観者より:学習規律が確立していて、落ち着いて安心して学べる雰囲気がよいと思う。45分間に聞く書く、話す等いろいろな活動があり、さらにコの字の学習形態が児童の集中力を高めている。

### 協議会・講師指導

猿島小学校 図書室

10:35~12:10 3部会(A・B・Cグループ)



#### 各グループの協議のまとめ

A:「伝える」を意識的に設定していきたい。自己肯定感を高める仕掛けが必要。幼稚園でも1分間スピーチなどを実践していることが小学校への「つなぎ」となる。

B:学習訓練や聞く姿勢などを「つなぎ」、45分間変化のある活動を取り入れたい。鉛筆の持ち方などで家庭と連携が必要であると感じている。

C:縦割り班活動などで異学年交流を行うことが成長に効果的であると思う。鉛筆とお箸の持ち方の基本は同じであり、文字を書いてみたいなという気持ちを育てることが大切である。

福島県郡山市教育委員会 総合教育支援センター

幼保小連携推進事業コーディネーター

鈴木 恵智子先生より

・スタートカリキュラムを活用し、じゃんけんや折り紙等導入で楽しい場所づくりを心がけてほしい。

・育てたい資質・能力「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間力等」は遊びを通して蓄積される。

・指示待ちでなく、主体的・対話的に学ぶことを積み重ねることで深い学びが実現される。

・求める子どもの姿・スタイルを明確にし、一人一人の資質・能力の違いに応じた活動を実践し、活動への関心を高めることが大切である。

## 相互参観通信 第2号

令和元年10月10日 保幼小接続推進委員会発行

令和元年10月8日(火)

### 保育参観：認定こども園バンビーノせいしょう めろん組

9:30~10:00

(5歳児)

活動「朝の身支度 朝の集まり 折り紙製作」 指導者 岸本 みどり, 齊藤 由紀



ねらい：着替えることで、園での時間が始まることを認識し、気持ちを切り替える。

自分の出来事を人に伝える。

机や椅子を用意し、製作に気持ちを切り替える。数に興味をもつ。

活動の留意点：子どもが分からないときは答えを教えるのではなく、子どもの考えを引き出すような声掛けをする。子どもの考えを大切にし、小さな声も聞き逃さないようにする。

1対全体で理解できるような言葉を使い指導する。

見通しを立てて製作できるような声掛けをする。手(支援)を出しすぎない。

就学を意識した生活上の自立や学びの芽の捉えや認め方

：○相手の気持ちを考える。○自分で考え行動する。○自分の気持ちは言葉で伝える。

### 協議会・講師指導

バンビーノせいしょうホール 10:15~11:30 3部会(A・B・Cグループ)



#### 各グループの協議のまとめ

A：「ほめる」ことで集中力が高まる。日常生活の中で言語の習得や衣服の着脱等を学んでいた。就学前から保護者と連携することで手厚い支援ができる。

B：語彙が増えていく指導を心がけている。子どもが楽しむ様子を通して行事等の価値を保護者に理解してもらうことが、小学校での協力につながっている。

C：少人数のよさが感じられた。8日を「ようか」と読む等幼児期にできていることを小学校へつなげたい。自立心や協働性、学びの芽生え等スタートカリキュラムを活用していきたい。

#### 境町教育委員会 学校教育課 指導主事 飯田 典子先生より

○幼児の実態把握がされていて、一人一人のよさを認め自己存在感が高められていた。

○タイムマネジメントがしっかりなされていて、着替えや机の移動など継続が力となっている。

○発問が精選されていて「昨日とどう違うの？」など考えを深めることができていた。

○園長先生の方針が全保育士に伝わり、共通理解・実践されている。

○言語能力や思考力を可視化することで気付きや学びが図られている。

※子どもは頭の中でたくさん考えている。先生が主導で思考を断ち切らぬよう寄り添うことが大切。